

## 取材メモ



高齢者の生きがいづくりや子ども学習支援などに取り組む「かめの泉」。誰もが自分の経験や技を発揮できる場所を整え、高齢者をはじめ地域住民の訪問を待っています。



刺し子(手芸の一つ)に熱中する人々。時折談笑も(上)男性も気軽に訪れ、経験や心の内を話している(右)



「かめの泉」は、倉吉市西倉吉町を中心に活動する住民団体。現在、主婦や会社員、元教員、元看護師など21人の会員がいます。結成は2013(平成25)年。会長である梓島和江さんの近所に住む高齢者が、オレオレ詐欺被害に遭ったことがきっかけでした。梓島さんは、今後同様の被害に遭わないようにと、住民勉強会を提案。「勉強会は高齢者の孤立防止も

## 寄る人の力湧かせる「待合所、

## かめの泉



待合所のすぐそばを流れる鉢屋川。夏にはホテルが見られる

狙いだった」と振り返ります。こうした活動を根付かせようと結成された「かめの泉」。名前には、長寿の亀にあやかり、泉のごとく元気が湧き出るようにとの思いが込められています。結成から3年後の16年、帰宅しても家に誰もおらず、塾にも通わない子どもの学習を支援する「啐啄塾」を西倉吉町に開設。週末や夏休みなどに、希望する小中学生の学習をサポートしています。さらに昨年7月には、空き家だった梓島さんの実家(同市越殿町)を改装し、高齢者を中心に誰もが集える「あなたと私の待合所」をオープン。待合所では、得意分野の会員を講師に、毎週月、水、金曜日の日中、手芸や音読、囲碁などの教室が開かれ、毎回、十数

刺し子を得意とする関戸夏江さんの作品。販売して運営費に



人が参加しています。また、同所では障がい者施設で作られているパンも販売。購入した人もその場で話し込んだり、休憩したり。啐啄塾が開かれない冬は子どもの居場所にもなっています。

「福祉センターや路線バスの停留所が近く、出掛けたついでに寄れる。だからサロンと言うより待合所」と笑う梓島さん。ここでは、誰もが経験や特技をいかに発揮し、訪れる人の数だけ、活動の幅を広げています。

## 取材を終えて



待合所への来訪者は絶え間なく、その誰もが笑顔でした。心地良く過ごせる裏庭もあります。初めて訪ねた人でも、和やかな雰囲気包んでくれます。(か)